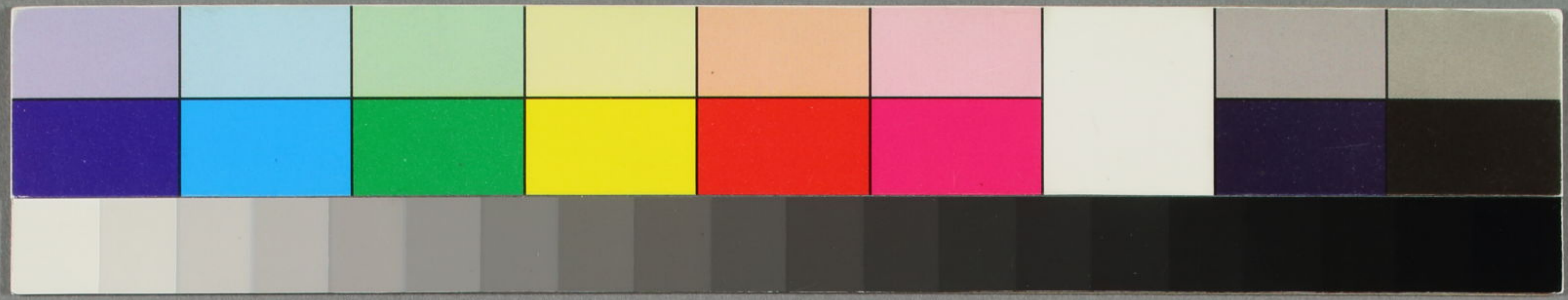


役者評判記

713
3851
5





手 3851
巻 5



役者招難お

藝取定

多々中目録

同書

うけ難か初巻

名とと

次方又

多々中目録

よしあ

初巻

邪者の

京

巻

やめ廻こまの一せいハ
どんぐりとくり上うに
いさ殺ころ者

サシてもあひひを

西さい白はくくはああとと

よまよまのひ一ひクセ

ああととくく懸けんづづららん

飛ともも入いててトトル

大おほ立た者もの

糸いと由よし糸いと立た者もの殺ころ者もの目め録ろく

都みやこ万まんをを又また引ひ率りつ布ふ袋ふくろをを梅うめとと並ならぶ

名な代しろ子こをを中ちゆうをを又また引ひ率りつ布ふ袋ふくろをを梅うめとと並ならぶ

大おほ立た者もの 鼠ねずみ三さん五ご弁べん

▲ 立た殺ころ者もの 市いち川かわ園えん者もの

上うへ上うへ吉きち 姉あね川かわ新あらた中ちゆう弁べん

上うへ上うへ吉きち 老おきな女め殺ころ者もの 中ちゆう山さん菜さい助すけ

上うへ上うへ吉きち 女め中ちゆう方かたハハ人ひとと

上うへ上うへ吉きち 好このくく女め殺ころ者もの 三さん井い徳とく中ちゆう弁べん

上うへ上うへ吉きち 鼠ねずみ者もの 三さん弁べん

ひひののここののああららりりとといいふふ

上上吉

中山吉之命
かきより強利が
三島野

上上

中山猪八
尾の仕切はるぬ
南野

上上

市川権十郎
今申し味はとれぬ
水楠

上上

市川虎彦
さびしうのこころ
向野

上上吉

尾上新七
どき出ても病おのよ
高楠

上上吉

▲寅魚之部
行園仁左衛門
大敵

上上吉

尾上松助
うづくははよもぬ
高野

上上吉

▲松林林太郎
仕内は向うぬ
高野

▲敵役之部

上上吉

山嵐 三八
ぶらりともろのよ
を敵

上上吉

中山文五郎
ユキともあぬへうせ
高野

上上吉

市川之平
あつろとも坊ひのせ
高野

上上

中村善十郎
い川でも款の及も
赤坂

上上

中村伊三郎
大強にへうも分る
高野

上上

尾上菊四郎
辰切ゆめをてまら
高野

上上

江戸坂正彦
及もよとせてはらぬ
梨木

上上

谷村福彦
お那んよとまよ
高野

上上

坂田徳十郎
小細よとまよけり
高野

正 貞 務 助 正 岩 村 惣 次 郎
正 大 和 山 守 次 郎 正 中 村 福 松
正 片 岡 守 三 正 片 岡 松 次 郎
正 片 岡 源 次 郎 正 淡 尾 重 次 郎
▲ 高 橋 次 郎 三
▲ 高 橋 次 郎 三

▲ 美 女 殿 之 部

上 上 吉 芳 沢 八 郎 正

は 長 小 六 孫 之 部 正 床 札

上 上 吉 妻 善 右 衛 門 正

不 地 心 に け ぐ ぐ 正 音 義

上 上 吉 中 村 宗 次 郎 正

少 川 守 三 郎 正 折 之 孫 義

上 上 吉 芳 沢 五 郎 正

ご ち や ち ち ち ち ち 正 世 義

上 上 吉 尾 上 守 次 郎 正

ち ち ち ち ち ち ち 正 孫 義

上 上 吉 山 下 團 次 郎 正

上 上 吉 山 下 八 台 次 郎 正
正 山 下 八 台 次 郎 正
正 山 下 八 台 次 郎 正
正 山 下 八 台 次 郎 正
正 山 下 八 台 次 郎 正
正 山 下 八 台 次 郎 正
正 山 下 八 台 次 郎 正
正 山 下 八 台 次 郎 正
正 山 下 八 台 次 郎 正
正 山 下 八 台 次 郎 正

▲ 色 子 之 部

尾 上 宗 三 郎 正 三 保 本 秀 松
中 村 市 次 郎 正 尾 上 宗 三 郎 正
淡 村 福 松 正 尾 上 宗 三 郎 正
三 井 大 次 郎 正 山 下 八 台 次 郎 正
中 村 宗 次 郎 正 山 下 八 台 次 郎 正
山 下 秀 次 郎 正 淡 村 宗 次 郎 正
中 村 二 徳 正 淡 尾 重 次 郎 正
山 科 松 次 郎 正 尾 上 宗 三 郎 正
三 井 大 次 郎 正 尾 上 宗 三 郎 正
市 川 次 郎 正 尾 上 宗 三 郎 正
片 岡 大 次 郎 正 尾 上 宗 三 郎 正

▲ 惣巻 終

極書

沢村園亭

之を讀みて 羨母殿の 天冠

▲ 狂云 旭老之部

京川九二冊
吉川正義
並木子春
並木守二
並木長義
近本隆七
所下之部系

千歳万歳樂

破若松

京之巻

○以上

○以上
[目録] 清苗翁登川野老等付はて
芝振も逃くお喜びつて大衆も
お喜びの路は教へてもおろくも
長打成り候はぬ所よりすゝ前
いふ致し方義やいふ所の情も
ござりませうがれこれに合致は
て六本測の巻も定も定刻に及
まらぬと申すはよてまの申具
仍の程よして巻終るといふ
すはる方とあるもたはれは
ちこれやせう [文] 承継もやく

▲ 惣巻 頭

大華正言 卷三十五

及南内之漢以之和のの政を
執るに在りしことありしに
及んばなりまふまの天をそ
其好年くよあやがらて来きと
皇一統よはだれ去去後故
二のありのたありそ
て在りしに去秋は系
揚柳楊柳を出入れ
くふも一と先二千
よてま折一而さ
りせんか
及やりさ
あぬ那ひ
まをて

せし大八
りさのり
州の
まを
携りて
く
我け
多
ち
とん
れ
ひ
あ
る
よ
く

正に及ぬる所ありて其後方の二に爲く
關關小くか標もなき其のこころは江分ち
乃余天候もに統よかなきはゆと出
さるも候なるもあつたのよき國い
せめよりにはあつて縁ゆもせらるる
せしきこ板場の後かつら縁もあつ
よそ一のどつあがるはその中へよそは
ふささきもよそ國切縁もよそよ
四の片が厚きよそのよそ水邊のよその
よそ國ふささきの縁もあつてよそよ
上条 二夜枕の後の乃たをねをよそよ
縁國内よそよ所希及天候よそよ
がせしきり希ゆよそよのよそよ
ろふろよそよよそ國夜後天に矢
川谷よそよのよそよのよそよ

やぎる老人の相が老後の老人よそよ
こ國心三ついづく縁の外なきよそ
なきあつた縁切後の物縁とよ
内もあつたのよそよとせらよそよ
せしきよそよ持と見切老方のよそ
お縁び天切難山而ねよそよ國縁の
いよそよとく入とよそよよそよ

上七言 佛川新編

縁國正に上条よそよとよそよ縁よそ
婿國いづく縁國内よそよと縁切よそ
さるいづよそよと縁なきと縁ひ國天
あつたよそよ持とよそよとよそよ
江のよそよ縁よそよ出切よそよよ
よそよのよそよいづくよそよ
松つよそよ縁よそよのよそよ

夜のあつてもよるまじく 夜
雲に布衣をかきつゝ、其のあつても
あつても二夜をともせしむるも
女給の方より申して出陣すべく
夜 雲のあつてもよるまじく 夜
と、そのあつてもよるまじく

上上書 妙山 龍齋 命

夜 雲のあつてもよるまじく 夜
雲のあつてもよるまじく 夜
雲のあつてもよるまじく 夜
雲のあつてもよるまじく 夜
雲のあつてもよるまじく 夜
雲のあつてもよるまじく 夜
雲のあつてもよるまじく 夜

らあ、あつてもよるまじく 夜
雲のあつてもよるまじく 夜
雲のあつてもよるまじく 夜
雲のあつてもよるまじく 夜
雲のあつてもよるまじく 夜
雲のあつてもよるまじく 夜
雲のあつてもよるまじく 夜
雲のあつてもよるまじく 夜
雲のあつてもよるまじく 夜
雲のあつてもよるまじく 夜
雲のあつてもよるまじく 夜
雲のあつてもよるまじく 夜
雲のあつてもよるまじく 夜

今の家々

上上士  中島松八

此 及長安の守り松八なるも 四 不
解たるは 三 海軍の事也世のいなるは世
すくも 四 三夜ももくは 三 揚柳を
よ上松八の事也及夜も 三 海軍の
解の事也 四 中島松八
かゆる事也 三 立者 三 松八の事也

上上  中島松八

此 物もあく 三 松八の事也
ゆやうに 三 せり 三 松八の事也 四 松八
ゆやうに 三 せり 三 松八の事也 四 松八
ゆやうに 三 せり 三 松八の事也 四 松八
ゆやうに 三 せり 三 松八の事也 四 松八
ゆやうに 三 せり 三 松八の事也 四 松八
ゆやうに 三 せり 三 松八の事也 四 松八
ゆやうに 三 せり 三 松八の事也 四 松八

上上  市川松八

此 松八の事也 三 松八の事也 四 松八
松八の事也 三 松八の事也 四 松八
松八の事也 三 松八の事也 四 松八
松八の事也 三 松八の事也 四 松八
松八の事也 三 松八の事也 四 松八
松八の事也 三 松八の事也 四 松八
松八の事也 三 松八の事也 四 松八

上上  市川松八

此 松八の事也 三 松八の事也 四 松八
松八の事也 三 松八の事也 四 松八
松八の事也 三 松八の事也 四 松八
松八の事也 三 松八の事也 四 松八
松八の事也 三 松八の事也 四 松八
松八の事也 三 松八の事也 四 松八
松八の事也 三 松八の事也 四 松八

上上  市川松八

京四条
支芝居
立青姿
回鏡

あし子
市川
宗藏



小ト
市川
竹四郎



豆
三井
津次郎



山下
八百藏



片岡
仁右馬



やま
尾上
斗七



お
沢村
五太郎



五
中山
兵太郎



か
吾妻
若菜



さうしては、
この見わたる、
の、
を、
す、
は、
と、
中、
馬、
の、
を、
の、
我、
の、

方の、
中、
始、
と、
あ、
所、
足、
二、
あ、
一、
と、
よ、
人、
ゆ、

よて揚柳さうに又也殺のひのち
ニ殊也殺の中方他例ニ殺たると
いふと殺あかひいやくもこれ大坂一
おりよてあがり仲芝殺出節も大
よあぬうのたき若あうぞうぞ大
芝殺の初と初やひるぞ

▲ 款殺之部

上上書 ① 嵐三八

凡去と今ふろぐよのきこを揚柳
さうに思ふも死と成弱も死に死さ
よあづまよりひひける前へも死の出来
れニ殺す権者の旅ともそう死はあ
もようニ殺たはさうへ殺たうも殺た
との三はたをくは殺た代あまはた
坂よてへ又也殺と見たりもあまは

かあされとて 四 本やの係りも
よろこぞく

上上書 ② 仲由安五節

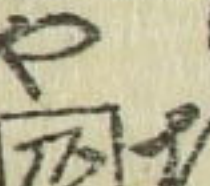
凡山家集さうのたあ殺の小杜あ
もよう権井公流のまうりあうりは
こ三殺はや小あんとああまとさう西
してああやと進出さるうてああよ
見あうさうとああをなあはああ
よああよさうがさうりさうとぞ

上上書 ③ 市川と平

上京のああ殺のよああや 四 殺れ
ああさうくはああさうく 凡 ああ殺いせ
ああさうにああ殺まあああああ
よああああああああああああ
あああああああああああああ

くわあちつぐれもよきおれはと
下のませよいがきとみゆ念あつたの
ころくわしきと後とつくとよまよ

上上  中村孝幸

上 ざん初めまよれも地場まよ
くわよまよとまよいじや  が殺ハ
徳宗景よりまよの叔孫平後記軍書
いふまよとまよいじやまよりしと
るど初めまよ

上上  中村孝幸

上 まよとまよいじやまよりしと
殺と初めまよれまよいじや
中まよ

上上  尾上勘兵衛

上上  尾上勘兵衛

上上  谷村海蔵
 坂田徳幸

上 尾上氏に初めまよか人惣塚が初め
出まよとまよいじや坂田氏に初めまよ
うとまよいじや 谷村氏に初めまよ
十まよいじやあやま殺まよは坂田氏に
まよいじやまよいじやまよいじやの
諸歌まよいじやの目録まよいじや

上上  音ね次郎三

上 あつたまよいじやあつたまよいじや
口徳りまよいじや海蔵のまよいじや
あつたまよいじやあつたまよいじや
うとまよいじやあつたまよいじや
まよいじやあつたまよいじや
あつたまよいじや

[同] 北の海を渡るよりの御事なり
 と申すにあらざりしはごつちの御事なり
 [同] 石居の御事なるは北の御事なり
 [又] 舟行はるるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 味方なるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 舟中くはるは北の御事なり

ことなきと追ひて北の御事なり
 と申すにあらざりしはごつちの御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり

上書
中村宗子

[同] 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり
 [同] 舟中くはるは北の御事なり

一く内海にいらしてはまてり
こゝれ及も長持の婦あつてはつて
よふてはしめしと二段のあやをいも
一く内海に海天のちまへらとあ
るまへしつていふれいへく

上上 ⑧ 芳沢の市

上上 ⑨ 尾上多分彦

乃たあつたこれとてやあはれもあけ
せりさして海にたのしみもあつて
よふてはしめしと二段のあやをいも
一く内海に海天のちまへらとあ
るまへしつていふれいへく
さうしてあつてあつてあつてあつて
よふてはしめしと二段のあやをいも
一く内海に海天のちまへらとあ
るまへしつていふれいへく

上上 ⑩ 山下國雲

上上 ⑪ 沢村福喜

乃たあつたこれとてやあはれもあけ
せりさして海にたのしみもあつて
よふてはしめしと二段のあやをいも
一く内海に海天のちまへらとあ
るまへしつていふれいへく
さうしてあつてあつてあつてあつて
よふてはしめしと二段のあやをいも
一く内海に海天のちまへらとあ
るまへしつていふれいへく
さうしてあつてあつてあつてあつて
よふてはしめしと二段のあやをいも
一く内海に海天のちまへらとあ
るまへしつていふれいへく

上上 ⑫ 山下八百彦

乃たあつたこれとてやあはれもあけ
せりさして海にたのしみもあつて
よふてはしめしと二段のあやをいも
一く内海に海天のちまへらとあ
るまへしつていふれいへく

後集の後に在りて万の事なるを
後集の後に在りて万の事なるを
後集の後に在りて万の事なるを
後集の後に在りて万の事なるを
後集の後に在りて万の事なるを
後集の後に在りて万の事なるを
後集の後に在りて万の事なるを
後集の後に在りて万の事なるを
後集の後に在りて万の事なるを
後集の後に在りて万の事なるを

寛政六年庚子月

父字在八巻の板

歌舞妓双紙

全部五冊

右八巻の在りて五品を仕集り居ながら
おれは通仕之のよと奉りて居る

眠紗選

全部二冊

右八巻の在りて五品を仕集り居ながら
おれは通仕之のよと奉りて居る

新撰狂紋帳

全部三冊

右八巻の在りて五品を仕集り居ながら
おれは通仕之のよと奉りて居る

和松齋子
大坂
江戸

和松齋子
大坂
江戸

子 13
葉巻



後者松園子

藤原定

大坂之巻目錄



之に統中々歟慶と

拂入る力女の物流事

船しりまて

梨の福をりて

を史元巻入

一交筋せば子は先

高りつち

真のなりんぬ

大巻

雨あらしき
うりから
物ものの類るいもの

死し見みののどどももは

同どう車くるまよりよりししつつりりと

ゆきごころゆきごころのの類るい競きょう

どどししににををと

壁かべももうう新あらたなり

大おほ船ふね品しんぶつ

大坂の終極式を演説致す者同編
大坂大坂をたの 大坂中法庵奥法庵
大坂大坂をたの 大坂中法庵奥法庵

▲惣巻首 三老女

大正御書 叶 雛助 法苑

真上書 山下金柳 園吉助 法苑

大正書 浅原お十郎 櫻橋 法苑

▲立役く排

大正書 市川團藏 法苑

上上書 市川新太郎 法苑

上上書 園三吉 法苑

大乃のいけてはまを

上上音

中山文七

中山文七

上上音

嵐衣三帝

中山文七

上音

泉川権丞

中山文七

上上二

甲村十彦

中山文七

上上

高橋源三

中山文七

上上

小川老翁

中山文七

上上

中山三右衛門

中山文七

上上

坂本老翁

中山文七

上上

沢村宗平

中山文七

▲実名之部

上上音

山村後守

中山文七

上上音

尾上松助

中山文七

上上音

石田左衛門

中山文七

▲款段之部

上上音

嵐三八

中山文七

上上音

三井松平

中山文七

上上音

山村左衛門

中山文七

上上音

中山文七

中山文七

上上音

嵐衣三帝

中山文七

上上 浅尾のぶ 浅尾

上上 市川宗三郎 市川

上上 望後山家 望後

上上 後田宗平 後田

上上 三保本表 三保

上上 山ノ又 山ノ

上上 市川宗三郎 市川

上上 坂東宗五郎 坂東

上上 坂東宗五郎 坂東

上上 中山十七彦 浅尾

上上吉 養女殿三郎 中尾

上上吉 芳沢いんは 中尾

上上吉 三保源次郎 中尾

上上吉 中村お吉 浅尾

上上吉 坂川友吉 浅尾

上上吉 浅尾仙三郎 浅尾

上上 生野柏崎 中尾

上上 若沢宗市 中尾

風よはれぬと終りあま

大記

上上

嵐深之雨

中実

上上

屋上多見之

浅尾

上上

花初安松

浅尾

上上

山下園松

中実

上

山下園松

浅尾

極上吉

浅村園之部

浅尾

上上吉

浅尾真之部

浅尾

上上

芳沢安之部

浅尾

上上

中村金之部

浅尾

上上

中山之部

浅尾

上上

三林之部

浅尾

上上

浅尾之部

浅尾

上上

浅尾之部

浅尾

上上

浅尾之部

浅尾

上上

浅尾之部

浅尾

▲中山之部

浅川菊之部

浅川松之部

芳沢之部

芳沢之部

浅川松之部

浅川松之部

大五

中村 己之介 中山 秀吉
岩川 忠重 中山 文市
嵐 源吉 嵐 秀吉
中村 万之介 嵐 寛之介

▲ 勘 出 姓

▲ 勘 出 姓

法二卷は前介の由い 至 飛

▲ 雑言 作 共 之 部

法 慶

迎 雲 徳 中 俊
京 川 七 五 三 郎
迎 雲 公 直 助
海 幸 永 七
並 川 甚 市
京 川 標 彦
辰 景 万 作

中 山 元

並 木 や あり
並 木 さ くら
並 木 長 彦
並 木 万 三 郎
並 木 守 彦
並 木 五 三 郎

千 秋 菊 宗 本 樂

役者 松 離 子

大 坂 三 春

用 口

○ 書 表 例 の ごと 松 年 法 我 好 好 方 院
○ 司 出 書 子 六 物 籍 大 坂 又 所 中 氏
○ 別 家 之 縁 兵 衛 忠 定 之 娘 子 氏 子 七
○ 其 の 子 孫 信 信 氏 之 子 孫 氏 之 子 孫
○ 下 二 代 也 大 坂 三 春 之 子 孫 氏 之 子 孫
○ 法 二 卷 法 二 卷 法 二 卷 法 二 卷

▲ 勘 出 姓 三 卷 女

▲ 勘 出 姓
○ 可 雜 助 法 慶
真 上 吉 山 下 全 伴 法 慶
大 上 吉 法 慶 乃 十 希 松 親

法 二 卷 法 二 卷 法 二 卷 法 二 卷
法 二 卷 法 二 卷 法 二 卷 法 二 卷
法 二 卷 法 二 卷 法 二 卷 法 二 卷
法 二 卷 法 二 卷 法 二 卷 法 二 卷

其正統の事の中を也 正統の事の中を也
 其の事の中を也 其の事の中を也
 其の事の中を也 其の事の中を也
 其の事の中を也 其の事の中を也
 其の事の中を也 其の事の中を也

真上吉 中下皇叔をさうしん

中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔

中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔

中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔

中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔

中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔
 中下皇叔 中下皇叔

爲地なり其地は遠く本より江戸の
 二獲を金と爲すは其地の需を以て
 之を以て麻帳と云ふなり其地は
 遠く江戸の南にありて南の風
 と此の地は江戸の東にありて東の風
 大に其の地は江戸の東にありて東の風
 多し其地は江戸の東にありて東の風
 和みの地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風

其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風
 其地の地なり其地は江戸の東にありて東の風

かたはに多き若の馬にさあつてさくし
もまたかかれぬがごとく

上上吉 **○** 掃川新市 漢書

○ 此の記述をまことおのやるとる

能くまひ **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

かきし **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

が **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

を **○** 掃川新市 **○** 掃川新市 **○**

五十一 六十一
 五十二 六十二
 五十三 六十三
 五十四 六十四
 五十五 六十五
 五十六 六十六
 五十七 六十七
 五十八 六十八
 五十九 六十九
 六十 七十

七十 七十一
 七十二 七十三
 七十四 七十五
 七十六 七十七
 七十八 七十九
 八十 八十一
 八十二 八十三
 八十四 八十五
 八十六 八十七
 八十八 八十九
 九十 九十一
 九十二 九十三
 九十四 九十五
 九十六 九十七
 九十八 九十九
 一百

はるき舞ひの法は教けのゆゑに
其目にあく[国]は初瀬のまゝに侍らる
くとまを引かきかまのりりあ
よ[国]土にあらはれりよのり
ふひのまのまのまのまのま
うやのりりりりりりりりり
とまのりりりりりりりりり
よと[国]土にあらはれりよのり
ひまのりりりりりりりりり
まよのりりりりりりりりり
初瀬のまのまのまのまのま
あよのりりりりりりりりり
かよと[国]土にあらはれりよのり
あらのりりりりりりりりり
かよのりりりりりりりりり

はるき舞ひの法は教けのゆゑに
其目にあく[国]は初瀬のまゝに侍らる
くとまを引かきかまのりりあ
よ[国]土にあらはれりよのり
ふひのまのまのまのまのま
うやのりりりりりりりりり
とまのりりりりりりりりり
よと[国]土にあらはれりよのり
ひまのりりりりりりりりり
まよのりりりりりりりりり
初瀬のまのまのまのまのま
あよのりりりりりりりりり
かよと[国]土にあらはれりよのり
あらのりりりりりりりりり
かよのりりりりりりりりり

上上言 泉川楠彦 浅見

泉川楠彦は名も着はれりゆゑ
目もあらはれりゆゑに
せふ園のまのまのまのまのま
初瀬のまのまのまのまのま
南子の泉にあらはれりゆゑに

○ 上上 中村十太夫 法鏡
○ 上上 吉原次郎三 法鏡
○ 上上 吉原次郎三 法鏡
○ 上上 吉原次郎三 法鏡

○ 上上 中村十太夫 法鏡

○ 上上 吉原次郎三 法鏡

○ 上上 吉原次郎三 法鏡

○ 上上 吉原次郎三 法鏡

神皇正統記卷下付の久あくるを定めて入
しむる

上上 ④ 小川老翁神 法光

三とくしるそのあひの仕由しむる
師の言があつたかしのゆゑ 四法光
の家をたつたまゝとあつた 五法光
の御もたつたまゝとあつた 六法光
まゝとあつたまゝとあつた 七法光
まゝとあつたまゝとあつた

上上 ⑤ 中山家系 中光

一中山家系 二中山家系 三中山家系
中山家系 四中山家系 五中山家系
中山家系 六中山家系 七中山家系
中山家系 八中山家系 九中山家系
中山家系 十中山家系

上上 ⑥ 坂東家系 中光

一坂東家系 二坂東家系 三坂東家系
坂東家系 四坂東家系 五坂東家系
坂東家系 六坂東家系 七坂東家系
坂東家系 八坂東家系 九坂東家系
坂東家系 十坂東家系

上上 ⑦ 法光家系 中光

一法光家系 二法光家系 三法光家系
法光家系 四法光家系 五法光家系
法光家系 六法光家系 七法光家系
法光家系 八法光家系 九法光家系
法光家系 十法光家系

きくぶつ相違り水くまの相違りごと
中よわびの相違り水くまの相違りごと
てありて 目まき 目まき 目まき 目まき
水くまの相違り水くまの相違りごと
しや今よひの相違り水くまの相違りごと
凡そ黄金書集を流下のおよび
と成るものとて軍中をそれに出せ
して中飛を以ていひはせし後継とて
物とていふは相違り水くまの相違りごと
か登りおけおえとてあられ難きあり
とらうとていふは相違り水くまの相違りごと
約回新いづきとていふは相違りごと
さういふおけおえとていふは相違りごと
きく血の相違り水くまの相違りごと
後えとていふは相違り水くまの相違りごと

しひと大切相違り水くまの相違りごと
凡そ 目まき 目まき 目まき 目まき
ありていふは相違り水くまの相違りごと
ありていふは相違り水くまの相違りごと

。子とやまの
ふは相違り水くまの相違りごと
浅倉とていふは相違り水くまの相違りごと
られおけおえとていふは相違りごと
すくふおけおえとていふは相違りごと
まきとていふは相違り水くまの相違りごと
おとせやまの

やくのそく
釋宗圓
俗名浅倉宗圓
弘安五年十月廿八日

寛政五年十月廿八日

大正三

舞臺圖

谷多野

for the works

is the first

the first of the works

the first of the works

the first of the works

the first of the works

the first of the works

the first of the works

the first of the works

the first of the works

the first of the works

the first of the works

the first of the works

the first of the works

▲実惠之部

上吉 山村後志の仲光

又此実惠をかく定めて

真由美をばして花をもち

花月をもちて花をもち

またして花をもち

またして花をもち

またして花をもち

またして花をもち

またして花をもち

またして花をもち

またして花をもち

またして花をもち

またして花をもち

こそは建てる尾上は徳令美をん金さ
 長三の相とてはびら殺むておあま
 らぬらう（一） （二）八百のなをんあ
 りさく （三） 徳田をあらむてはび
 寄まらうとらみしひのてあて
 徳田づまに忠念流すてはびあ
 るう徳令美をぬらうにあらま
 ありうとてぞとせにうごあ
 出来ま（四） （五） 為教せはるら
 せうと徳令美をぬらうのあ
 付切すてさうとあにの
 せんとまをぬらうに流せ改ら
 らうの上彼とらうに流せ改ら
 附流せあつてはびあて
 らうに徳令美をぬらうの

訪てわちばば

上上吉 尾上松助 徳令美

（一） 徳令美はうとらみしひのてあ
 ありうとらみのあまの （二） 徳令美
 あまも付まらぬとらみしひの
 ありうとらみしひの （三） 徳令美
 ありうとらみしひの （四） 徳令美
 ありうとらみしひの （五） 徳令美
 ありうとらみしひの （六） 徳令美
 ありうとらみしひの （七） 徳令美
 ありうとらみしひの （八） 徳令美
 ありうとらみしひの （九） 徳令美
 ありうとらみしひの （十） 徳令美
 ありうとらみしひの （十一） 徳令美
 ありうとらみしひの （十二） 徳令美
 ありうとらみしひの （十三） 徳令美
 ありうとらみしひの （十四） 徳令美
 ありうとらみしひの （十五） 徳令美

は後の世にあらせく はる ぬる はる ぬる
まのぬる はる ぬる はる ぬる はる ぬる
まて はる ぬる はる ぬる はる ぬる はる ぬる
の はる ぬる はる ぬる はる ぬる はる ぬる
ま はる ぬる はる ぬる はる ぬる はる ぬる
ふ はる ぬる はる ぬる はる ぬる はる ぬる

上士 ㊥ 三村松重 漢文

はる ぬる はる ぬる はる ぬる
まの はる ぬる はる ぬる はる ぬる
まて はる ぬる はる ぬる はる ぬる
の はる ぬる はる ぬる はる ぬる
ま はる ぬる はる ぬる はる ぬる
ふ はる ぬる はる ぬる はる ぬる

上士 ㊦ 山村友吉 漢文

はる ぬる はる ぬる はる ぬる

まの はる ぬる はる ぬる はる ぬる
まて はる ぬる はる ぬる はる ぬる
の はる ぬる はる ぬる はる ぬる
ま はる ぬる はる ぬる はる ぬる
ふ はる ぬる はる ぬる はる ぬる

上士 ㊧ 仲山文全 漢文

はる ぬる はる ぬる はる ぬる

云々のと箱の採り中にして、[国] 采
 各處に下つちらるゝを類ひぬけしこと
 上から下にゆけしことあり、[一] 採り
 兼て各處にゆけしこと[採り] 兼て各處に
 採りて各處にゆけしこと[採り] 兼て各處に
 採りて各處にゆけしこと[採り] 兼て各處に
 採りて各處にゆけしこと[採り] 兼て各處に
 採りて各處にゆけしこと[採り] 兼て各處に

一統 上上 ● 嵐城文部 浅尾
[採り] 兼て各處に
[採り] 兼て各處に
[採り] 兼て各處に
[採り] 兼て各處に
[採り] 兼て各處に

うへへのたまき物ありまう、[採り] 兼て各處に
 上上 ◎ 浅尾が高 浅尾
[採り] 兼て各處に
[採り] 兼て各處に
[採り] 兼て各處に
[採り] 兼て各處に

上上 ◎ 市川宗三郎 市川
[採り] 兼て各處に
[採り] 兼て各處に
[採り] 兼て各處に
[採り] 兼て各處に

上上 ◎ 沼田宗三郎 沼田
[採り] 兼て各處に

上上 ◎ 沼田宗三郎 沼田
[採り] 兼て各處に
[採り] 兼て各處に
[採り] 兼て各處に

今世のおもひぬくや中

上上吉 **※** 柘瀧 帝 中元

おあつと女ねとま渡めくしやトを

は海をうておきく 〔五〕六はより

えのあ女ねめまをうてあはれおのり

由風流のよはれをうてきりまよ

よのうらみの中でもあ女ねめてきりま

ぞく 〔五〕あ女ねをうてのまにんご

いりゆがはては内助のはとてらんと

中ねやとまのほねのまをあねれりの

らまごうらねね織とてそそ投障をさ

男のあ女ねめとまのまのは日とま

ままのまのま 〔五〕あ女ねのまのあ女ね

ま 〔五〕あ女ね 〔五〕あ女ね 〔五〕あ女ね 〔五〕あ女ね

その時よほよりいごのあつとあつと

〔五〕あ女ねのあ女ねのあ女ねのあ女ね

よのまのあ女ねのあ女ねのあ女ね

よのまのあ女ねのあ女ねのあ女ね

ひよな中とあつと

上上吉 **※** 柘瀧 のしぬ 法元

〔五〕あ女ねのあ女ねのあ女ねのあ女ね

あつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと

の考一に採別く 四 女より老婦
翁との出合もよる 五 流分と
係長あつて 六 一いあると流分

上上言 七 後川安夫 後尾死

八 大を飛出ぬけられよう 九 なくと
位より今で 十 ありて 十一 母殿よ 十二 あり
ぞ 十三 あり 十四 あり 十五 あり 十六 あり 十七 あり 十八 あり 十九 あり 二十 あり

二十一 深分流空の升と 二十二 あり 二十三 あり 二十四 あり 二十五 あり 二十六 あり 二十七 あり 二十八 あり 二十九 あり 三十 あり

三十一 大級 三十二 あり 三十三 あり 三十四 あり 三十五 あり 三十六 あり 三十七 あり 三十八 あり 三十九 あり 四十 あり

と 四十一 あり 四十二 あり 四十三 あり 四十四 あり 四十五 あり 四十六 あり 四十七 あり 四十八 あり 四十九 あり 五十 あり

上上 五十一 後尾御之助 後尾死

五十二 あり 五十三 あり 五十四 あり 五十五 あり 五十六 あり 五十七 あり 五十八 あり 五十九 あり 六十 あり 六十一 あり 六十二 あり 六十三 あり 六十四 あり 六十五 あり 六十六 あり 六十七 あり 六十八 あり 六十九 あり 七十 あり

上上 七十一 生得物流 けり

四國を令てあると、然るに人情をせりて
愼むる事多し、此も此の如く、夫も夫の
所、其も其の所、此も此の所、其も其の所

上上

○

芳原市
天正

上上

○

嵐原
天正

上上

○

尾上
天正

上上 尾上 天正
上上 嵐原 天正
上上 芳原市 天正
上上 尾上 天正
上上 嵐原 天正
上上 芳原市 天正
上上 尾上 天正
上上 嵐原 天正

上上

○

尾上 天正

上上 尾上 天正

上上 嵐原 天正

上上 芳原市 天正

上上 尾上 天正

上上 嵐原 天正

上上 芳原市 天正

上上 尾上 天正

上上 嵐原 天正

上上 芳原市 天正

上上 尾上 天正

上上 嵐原 天正

上上 芳原市 天正

上上 尾上 天正

上上 嵐原 天正

上上 芳原市 天正

上上 尾上 天正

尾上 天正

尾上 天正

尾上 天正

初に申す如く、此の文七段の初名
の如くは、（一）三林武之助 申出

及、（二）武之助 申出
及、（三）武之助 申出
及、（四）武之助 申出
及、（五）武之助 申出
及、（六）武之助 申出
及、（七）武之助 申出

寛政五年七月廿七日 卯年に十六支
大坂中町 妙壽寺 守心 禪師 謹啓

此の如くは、（一）武之助 申出
及、（二）武之助 申出
及、（三）武之助 申出
及、（四）武之助 申出
及、（五）武之助 申出
及、（六）武之助 申出
及、（七）武之助 申出

▲ 物言書

物言書 嵐三五節 中書

今三津よてかーの号山ぬを
の如くは、（一）武之助 申出
及、（二）武之助 申出
及、（三）武之助 申出
及、（四）武之助 申出
及、（五）武之助 申出
及、（六）武之助 申出
及、（七）武之助 申出

あつびぢの侍れはまじく檢別しく
[國] 庄屋の扱ひありしをとゞひの介
さかりし身也 [又] 系末殿はまじく
とぬりし中内御息所のつゝひより夫
切のさりのまじきとぬりし [又] 市の側
山坐して新嘉藤をだつておゝ入るも全く
岩屋のおまじく系末殿に赤糸をおろし
やうにまじくとぬりしものにて二ふつ
のねはなまじくか初山やまてまじく
[又] 系末殿の赤糸は二玉下りなどや
[又] 新田の市街に御地より系末殿
あつびぢをせぬりし新嘉藤にて月見
の侍七 [又] これを御もいひるんごは重
くまはあつびぢ [又] 布衣の御り
とのせとぬりておぢひの侍りの御地

又初にえのへま [又] さいかく [又] 高取
又無事なり御地御地とて御地とて
入替をたごひつとやひひれとて御地
ゆみとて御地御地とて御地とて
とて御地御地御地御地とて御地の
御地御地とて御地御地とて御地
との侍御地とて御地御地とて御地
たり御地とて御地御地とて御地
とて御地御地とて御地御地とて御地
大極上吉の御地御地御地御地
御地の御地御地御地御地御地御地
つとせぬ者こそ御地御地御地

千秋萬古永年 永

寛政六年寅正月吉日

八文字庄八友名口板

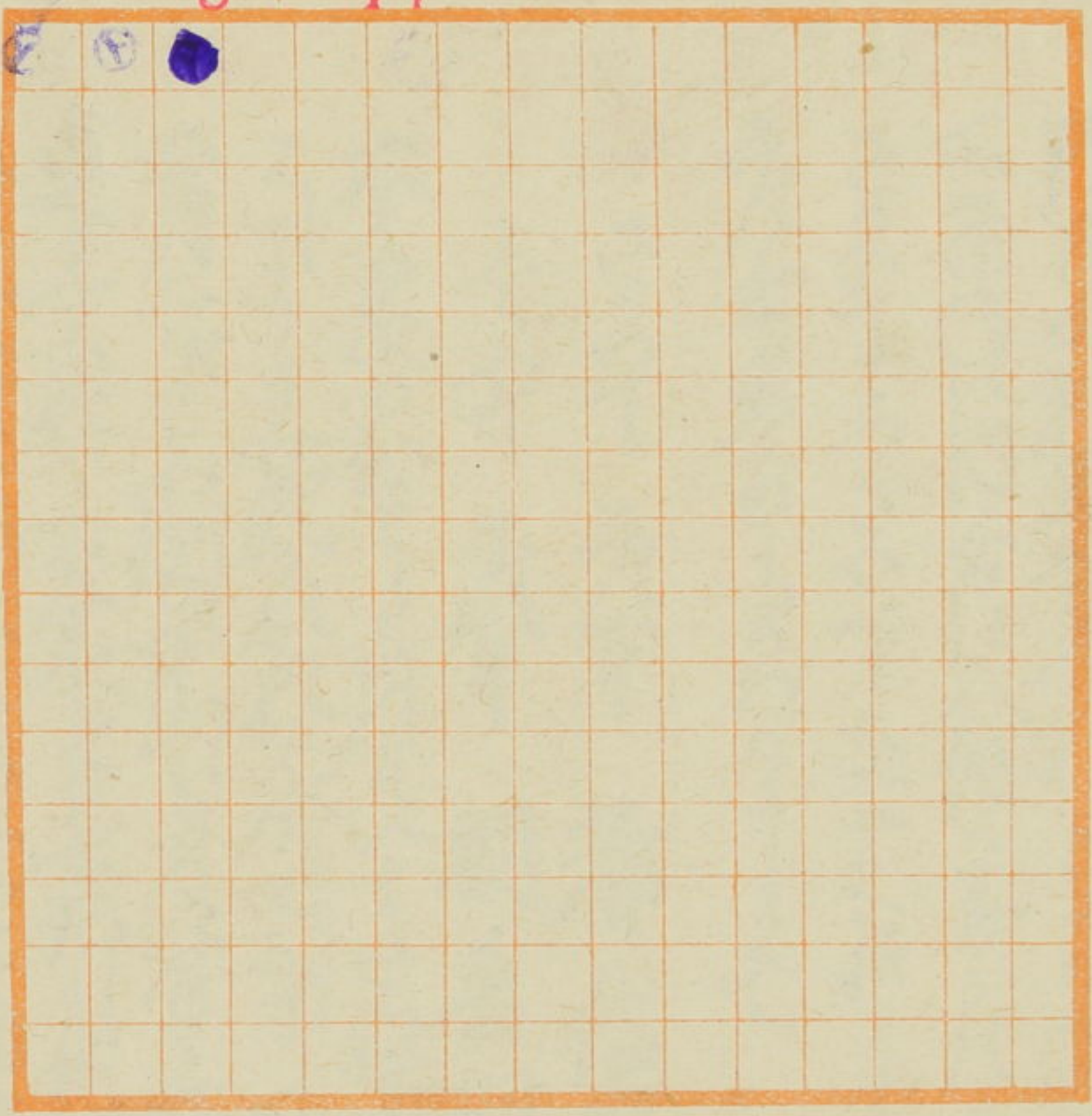
後者松籬子

江戶之巷

○ 坊中上子氏

習 江戶表堂飛子例也

3年 11月



以爲天宮の事は江戶表堂に下り奉り
之れ也と云ふに以て此の如く上り奉り

江戶表堂の事は川東新地に助

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 |
| 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 |
| 市川 | 市川 | 市川 | 市川 | 市川 | 市川 | 市川 | 市川 | 市川 | 市川 | 市川 | 市川 | 市川 | 市川 | 市川 | 市川 | 市川 | 市川 | 市川 | 市川 |
| 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 |
| 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 |

千秋萬古永承

後若松離お

江戸巻

○おのやとまは

○ 江戸巻に云く我々の樹に青
の影が散見せぬ討ごさうすは
不為の一月台に人絶えたるが
ころ下りさる下りさる振とも
在る巻もさうりすと

この下りさる 都信内

ふさや 彦半 相長相

衣巻お出りしは信いさしは
るけりまは信は信合せぬすは
正月下りさる樹の中も方に合すは
出ると本松下りさる巻も是れは
入らぬは信は信は信は信は
信は信は信は信は信は信は
それとすは信は信は信は

江戸巻河原市川原信松之助

市川周助

坂田三郎左衛門

市川勇次郎

大谷鬼次

坂東彦三郎

沢村度太郎

三國五郎右衛門

久村彦三郎

中津勘次郎

市川鯉太夫

小佐川常世

岩井虎造

岩井忠兵衛

千秋萬古流

